

1 自己評価について

(1) 重点目標の達成に向けた具体的な取り組み状況や達成状況

重点目標

「至誠」の具現化

「至誠」をあらゆる場面で実行することで、生徒一人一人がその精神を具現化できるようにする。真心と揺るぎない信念を持って具体的に行動できる人材を育てる

努力点

- ①「文武両道」および「人材育成」の実践
- ②進路目標に応じた指導の徹底
- ③主体的な学習・生活態度の確立に向けた取り組み
- ④諸課題への積極的な対応（安全・安心な学校づくり、いじめ防止対策、新学習指導要領への対応等）

- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善と教員の授業力向上を図っている。特に、今年度は、県教育委員会の「学力向上に向けた指導体制モデル事業」における「教員指導力向上事業」の指定を受け、国語科において外部講師を複数回招いての「教科指導力向上研修」を行った。また、生徒に「確かな学力（基礎力）」、「思考力・判断力・表現力」、「問題を解決していく実践力」を身につけさせるため、第1学年「学修状況評価」、第2学年「テーマ研究」を実施している。
- ・生徒は文武両道を実践し、学習、部活動に日々積極的に取り組んでいる。今年度は、コロナウイルス感染症の影響で例年通りの活動はままならなかったが、その中でも多くの部活動が関東大会、全国大会に出場した。（全国：陸上競技部、バレーボール部 関東：サッカー部、陸上競技部、ソフトテニス部、空手道部、文芸部、写真部、吹奏楽部）
- ・「教育相談アンケート」の中に自己有用感を感じているかを問う設問を設け、その結果を指導に生かす取組も行っている。また、スクールカウンセラーの配置により教育相談体制の充実を図ることができた。
- ・コロナウイルス感染状況に対応して、学年・旅行者及び県教委と連携して、日程・方面の再検討及び変更、キャンセル料への対応等を行うとともに、生徒・保護者に説明会を実施し、混乱することなく無事に実施することができた。
- ・「学校評価のためのアンケート」の「生徒の人的成長を促す取り組みに力を注いでいる」に対する回答の肯定的意見が生徒85%、保護者80%、教員90%となり、昨年度と比較して、保護者で増加しており、全体としては肯定的意見の割合が高くなっている。

(2) 学校運営の取り組み状況

- ・「至誠」を基本精神に掲げ、校長の学校経営方針の下、教職員が一丸となって、生徒の指導、援助に当たっている。また、生徒も、文武両道を実践し、学習にも部活動にも日々積極的に取り組んでいる。
- ・PTA、同窓会をはじめ、地域の関係諸機関との連携により伝統ある地域の進学校として将来リーダーとなるべき人材の育成に取り組んでいる。
- ・PTA支部総会の学校説明の部の持ち方を、学年に応じた内容・方法での実施に切り替える方向でPTA理事会に提案している。
- ・真高生としての基本的な生活習慣を身につけさせるため、1年生入学直後に新入生初期指導計画を実施した。例年に比べて交通事故が減少したり学期末に欠点の指導を受ける生徒数が減少した。また、高校3年間の学習や進路研究の見通しを十分に持たせることができた。

(3) 校務分掌各部・教科・学年の取り組み状況

- ・生徒の主体的な行動力を高めるため、各校務分掌が互いに連携を取りながら生徒の指導・援助を進めた。特に、進路指導部では、各学年の進路係と連携して、「3年間の指導の流れ」に沿った指導を行った。また、生徒指導部は、生徒のあり方生き方を自ら考える姿勢を醸成するような指導を心掛けた。

(4) 授業改善及び学力向上に向けた取り組み状況や達成状況

- ・生徒の視点に立った授業改善を進めるとともに、主体的に授業に取り組もうとする態度を育むため、「授業に関するアンケート」を実施した。また、各教科の分析結果を職員会議で共有した。
- ・年度途中に整備された電子黒板の効果的活用の研究と授業実践・改善によって、生徒の主体的・

対話的で深い学びを促進する授業が展開されている。

- ・第1学年「学修状況評価」において、セルフマネジメント力の向上や学力の向上を図った。
- ・「学校評価のためのアンケート」の「質の高い授業を行うように努めている」の回答で、肯定的意見が生徒87%、保護者85%と高い評価を得ることができた。

(5) 開かれた学校づくりの取り組みに対する状況

- ・ホームページや学校だより（白布ヶ丘だより）、一斉メール等を通じて、学校の情報が正しく保護者や地域に伝わるよう広報活動に努めている。学校だよりは近隣地域の回覧板に添えて配布していただいている。
- ・吹奏楽部が真岡市の成人式で演奏するなど、例年行ってきた生徒会や部活動等による地域との交流の一部が実施できた。

(6) 生徒・保護者アンケート結果を踏まえての評価

- ・昨年度に続いて、新型コロナウイルス感染症への対応の影響があり、単純な過年度比較はできないが、昨年度肯定的意見が減少した項目の多くで今年度は増加した。また、ほぼすべての質問において肯定的意見が8割から9割以上を占めており、高い評価を維持している。
- ・「わからない」という回答の多い項目については、広報活動等を通して、より分かりやすい説明を続けていく。

(7) 教職員の意識改革及び意欲向上に向けた取り組み状況

- ・本年度の重点目標、努力点に即し、総合的な探究の時間（第1学年「学修状況評価」、第2学年「テーマ研究」、第3学年「進路探究」）等の新しい取組も実践されている。
- ・令和4年度入学生から実施される新学習指導要領の観点別評価について、昨年度に引き続き検討を重ね、全教科で評価を試行して、課題の洗い出し・改善を行って実施に備える事ができた。
- ・進路指導部が開催する進学指導研究会と出願大学検討会において、直接生徒を指導する担任団と進路指導部の各教員が大学学部学科についての情報や進路選択についての考え方等を共有しており、学校全体で生徒の進路指導を行っていく体制づくりがさらに固まりつつある。
- ・コロナ禍で例年のような学校運営ができなかったが、そのような状況下でも「ピンチをチャンスに」と教職員が一丸となって教育に取り組むことができた。

2 学校関係者評価について

(1) 評価組織（評価者）

学校評議員（保護者を含む）を学校評価委員に委嘱して評価を行った。

(2) 評価結果

- ・生徒会が企画・運営している「落ち葉清掃ボランティア」は近隣住民との良好な関係を築くためにも有効である。引き続き取り組んでほしい。
- ・大学生の入社試験で面接を行っているが、やりたいことが明確でない学生が増えてきていると感じる。ぜひ自分の将来像が描けるような指導をお願いしたい。
- ・コロナ禍の中でも部活動を含めて教育活動をよく行っていることが、アンケートの高評価にも現れている。
- ・公開授業を見学して電子黒板は学力向上に資する有効なものだと感じた。現在設置されていない教室にもぜひ設置してほしい。
- ・学校ホームページは、保護者・OBや中学生が利用しており、積極的に情報発信してほしい。中学生は部活動への関心も高いので、その成果をぜひ載せてほしい。また、保護者アンケートでいじめ問題に関する学校の取組が「わからない」と答えた割合が比較的高いが、先生方がこまめに対応していることを広報していただきたい。
- ・担任の先生始め、副担任や学年の先生に丁寧に指導してもらい、保護者として感謝している。